

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年 8月29日 No.21

これがJR東日本の職場現実④

職場問題に対して原因究明委員会を開催していこう!

8・8集会で出された各職場からの声を紹介します!

【運輸職場】

裏面監査と思われる事象が発生。便乗運転士が、運転には直接関係ない広報のようなものをタブレットで閲覧していたとして直ちに乗務を降ろされ、聞き取りされた。現場に報告したのは、出勤途中の他職場の管理者で、その場で直接本人に注意すればよいものをそれをせず職場に連絡をしている。

裏面監査の対象は組合員に留まらず、未加入者に対しても「ハンドルから手を離していた」との報告がされ同様に聞き取りが行われている。

【営業職場】

「融合と連携」という名のもとに、管理者にも大きな負担がかかっている。管理者による出場遅延が連続発生したが、背後要因は統括センター全体の勤務作成に苦慮しており、**業務量が増えて本来業務が蔑ろになり、兼務駅の慣れない職場環境で作業の勘違いから発生している。**



【工務職場】

レール折損事象が4件発生している。要因は①目視による判断がし切れないパートナー会社の現実②モニタリングの精度がまだ甘く、多くの不具合箇所が上がってきても見切れない現実③そもそもすべての不具合箇所を見に行けるだけの要員がない為、安全よりもいかに手間を減らすかが優先されてしまっている現実。

【運輸職場】

CSに手を上げない、安全懇談会にも人が来ない。若手は「CSや安全は金にならない」「運転士は5年やったらもういいから、早く企画業務に行かせて欲しい」このような声が蔓延。現場での企画業務は、乗務手当が減るのでその分を評価で補うとのこと。

